

# 西東京市図書館計画

(平成31(2019)年度～2023年度)

平成31年3月

西東京市教育委員会

## 目 次

はじめに — 計画の目的	1
I 計画の概要	1
1 計画の位置づけ	1
2 計画期間	1
II 現状と課題	2
1 資料計画の現状と課題	2
2 サービス計画の現状と課題	4
3 職員組織計画の現状と課題	6
4 施設計画の現状と課題	6
5 その他の取組みについて	8
6 アンケート等に見る図書館への評価	10
III 基本的な考え方	15
1 基本理念	15
2 基本方針	15
3 計画の体系	16
IV 方針に基づく施策の方向性と取組み	18
基本方針1 資料の収集と保存の充実	18
基本方針2 すべての市民に活用されるために	21
基本方針3 西東京市の文化・歴史を次世代に継承する	25
基本方針4 未来を担う子どもの読書活動の支援	27
基本方針5 地域、行政と連携した図書館サービスの向上	30
基本方針6 効率的・効果的な運営体制の構築	33
V 中長期的な図書館の展望に向けて	35
(1) 中央図書館の方向性	35
(2) 中央図書館に求められる機能	36
(3) 中央図書館施設の課題	37
(4) 求められる中央図書館の規模	37
(5) 地域館の役割	37
(6) 今後の施設の配置について	38
(7) 館外へ視線を向けて	38

## 資料編

・西東京市図書館資料収集基準	40
・西東京市図書館計画策定懇会設置要綱	42
・西東京市図書館計画策定懇談会委員名簿	43
・西東京市図書館計画策定懇談会会議開催状況	44

## はじめに ー計画の目的

図書館には長い期間をかけて集めた多くの貴重な資料があります。市民が必要とする資料を体系的に整備し長期に保存するとともに、時代のニーズに応えるサービスの実現を図ることが求められています。

長期的な展望を持ち、継続的に安定した運営を行うために、西東京市図書館は平成20年度に「西東京市図書館基本計画・展望計画（平成21年度～平成30年度）」（以下、「基本計画・展望計画」という。）を策定し、様々な事業を実施してきました。

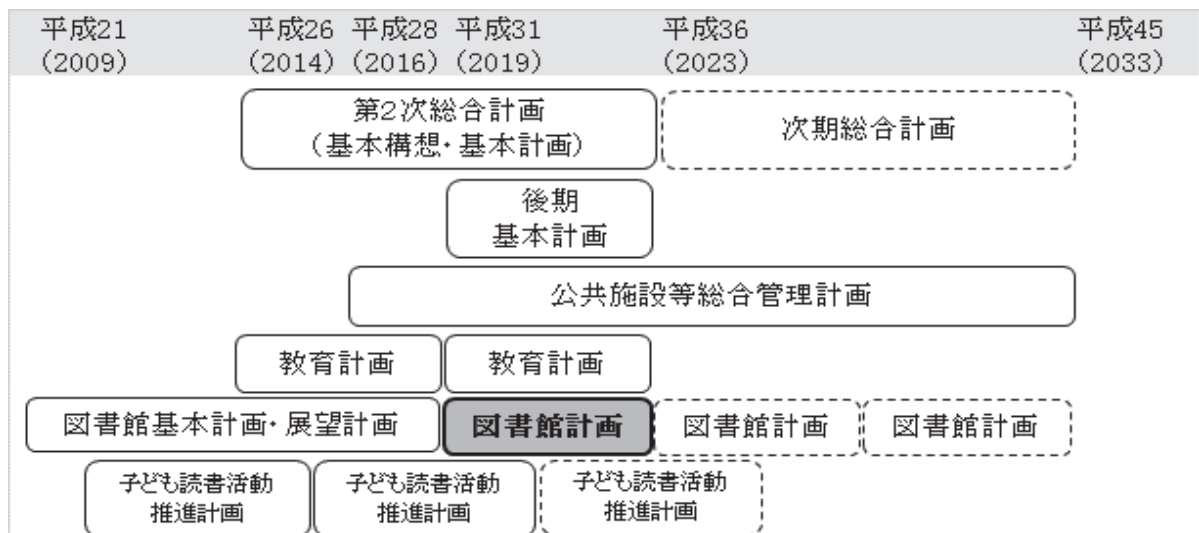
世代別、対象別の各サービスをはじめ、開館時間の延長、予約棚や自動貸出機等ICTタグを活用した図書館管理システムの導入など、利用しやすい図書館づくりを進めてきました。

平成30年度に「基本計画・展望計画」が終了となることから、少子高齢社会、高度情報通信ネットワーク社会など、図書館を取り巻く環境の変化を踏まえ、新たに、平成31（2019）年度から平成35（2023）年度までを計画期間とする「西東京市図書館計画」を策定しました。

## I 計画の概要

### 1 計画の位置付け

本計画は、「西東京市第2次総合計画・後期基本計画」「西東京市教育計画」その他関連する計画を踏まえ、中長期的な視野に立った望ましい図書館のあり方を含めて、これからの図書館活動を推進するための計画として位置付けます。



### 2 計画期間

計画期間は、平成31（2019）年度から2023年度の5年間とします。

## Ⅱ 現状と課題

「基本計画・展望計画」では、事業計画、職員組織計画、施設計画の3つの計画を掲げ取り組んできました。事業計画では部門ごとの資料計画とサービス計画、職員組織計画では人事計画や研修計画、施設計画では公共図書館としての適正規模の目標設定や改修計画を主な取組みとして進めてきました。

実施した事業については、毎年、事業評価を行い、図書館協議会（以下、「協議会」という。）から二次評価を受け、事業の進行管理を行ってきました。

### 1 資料計画の現状と課題

図書館では、「西東京市図書館資料収集基準」の「図書館は、地域における生涯学習を推進する機関として、基本的人権の一つである知る自由を利用者※1に保障し、利用者の必要とする資料」を種類別、利用者対象別に収集しています。

#### 一般図書資料・逐次刊行物

##### 【現状】

「利用者の文化・教養の向上、調査・研究、趣味レクリエーション等に役立つ資料を各分野にわたり、体系的に幅広く収集」しています。市内6館の図書館は、地域性や利用者層、利用状況、施設規模などを考慮した資料構成となっています。

逐次刊行物については「内容の速報性を重視し、市民の趣味趣向や流行に留意し、生活に密着した情報から学術調査・研究に役立つものまで提供できるように、各分野において幅広く収集」してきました。

テーマ別書架コーナーを設置し、関連する講座の開催と講座の成果物の全館展示など、新しい取組みを実施しました。また、配布用リーフレットなどの最新情報についても積極的な提供を進め、テーマ別書架に置くことで利用の促進を図りました。

新たな資料として、英語多読資料の購入を開始しました。

##### 【課題】

市民ニーズや社会情勢の変化を把握し、各分野の専門的な資料や、新たな地域課題の解決を支援するための資料の収集と利用の促進に繋がる取組みを継続するためには、多様な蔵書と十分な保存能力が必要です。

#### 児童図書資料

##### 【現状】

「未来ある子どもたちに読書の喜び、物事を調べることの楽しさを知ってもらえるように、また、知識・感性・情緒の育成を促し、様々な興味に応えられる資料収集」を行ってきました。

この10年は、団体貸出の利用が増加していることから、複本の購入を積極的に行い、事業の充実を進めてきました。また、近年は、アジア圏の言語を母語とする市民が多いことから、所蔵の少なかった中国語や韓国語の絵本の収集を進めました。

〈用語説明〉

※1 利用者…現在利用されている方々のみならず、将来利用者になる方々を含めて「利用者」と考え、表記している。

### 【課題】

外国語絵本の蔵書数を増やすことで、市民ニーズの拡大を図ってきました。今後は、英語、中国語、韓国語以外の外国語についても収集範囲を広げることと、広報を工夫するなど、利用を増やす働きかけが必要です。

## 青少年図書資料

### 【現状】

「YA（ヤングアダルト）※2世代の対象を13歳から18歳までとし、青春期特有のテーマを扱った、読み物・絵本・ノンフィクションなどを中心に様々な分野から収集」しています。中央図書館とひばりが丘図書館では、同世代に向けたノンフィクション資料の充実を進めてきました。また、中高生に身近な「進路」「部活」「勉強法」のテーマ展示や、中学生が薦める本のPOP展示を行いました。

### 【課題】

積極的な広報の取組みや市内中学校等への協力依頼を行うなど、利用の促進を図るための検討が必要です。

## レファレンス資料（参考図書）

### 【現状】

「通常の読書と異なる参考調査を目的として編集された辞書・事典・年鑑などの資料を収集」しています。

毎月収集したすべてのレファレンス資料の新着情報をホームページに掲載するなど、情報提供の強化を図りました。白書や年鑑類は中央図書館での集中保存を進め、地域館は資料の多様性や新鮮度が維持できるように整備を進めました。

### 【課題】

紙媒体のレファレンス資料については、近年廃刊が多いことから、保存スペースの確保を含め、廃棄や保存を慎重に進める必要があります。

## 地域・行政資料

### 【現状】

「自分が住んでいる地域についての様々な調査・研究・学習の要求に対して、図書館が資料をもって応えることは重要な責務の一つです。西東京市に関する資料については、それらを西東京市以外の機関に委ねることはできないことから、印刷物を中心に可能な限り収集」してきました。

### 【課題】

地域固有の資料を着実に収集・保存、提供し、西東京市の文化や歴史を後世に伝える役割を担っている地域・行政資料を永年保存しています。一方で、資料の電子化を進めていますが、元の資料を保存するスペースの不足が課題です。

## 視聴覚資料

### 【現状】

「利用者に対する幅広い資料提供の一環として、視聴覚資料を提供しています。図書資料等、紙のメディアだけではその分野を知る上で充分ではないと考えられるもの、表現方法において、視聴覚資料の方が優れていると考えられるものを収集」をしてき

※2 YA（ヤングアダルト）…Young Adult の略。西東京市図書館では13歳から18歳までの子どもと大人の狭間の世代を指す。

ました。

**【課題】**

現在の視聴覚資料の貸出点数が少ないことから改善を求める声もありますが、規則改正等の条件整備が必要です。

音訳・点訳等資料

**【現状】**

「主に、視覚に障害のある利用者の幅広い要求に応えるために、一般の書籍・雑誌など墨字資料※3に代わり、直接、知識・情報を得ることができ、読書を楽しむことのできる形態の資料を収集」し、自館での作製にも努めています。作製したデイジー(DAISY)図書※4は、国立国会図書館や日本点字図書館にデータを送付し共有化を進めました。また、高齢者対応として、大活字本を積極的に提供しました。

**【課題】**

利用者からのリクエストが増加傾向にあり、現状のデイジー図書作製に係わる音訳者だけで対応するのは難しくなっています。音訳の質的レベルを維持して作製を進めるには、音訳者の育成と強化が必要です。

## 2 サービス計画の現状と課題

成人サービス

**【現状】**

ビジネス支援、シニア支援、20～30代を対象とした青年期支援※5、健康・医療情報、法律情報など、利用目的や用途に合わせたコーナーづくりと、関連するテーマによる講座や講演会を実施して、課題解決支援の取組みと情報提供に努めてきました。

継続的にリクエストがあった洋書・英語絵本等を収集し、シリーズ別、レベル別に整備した英語多読コーナーを中央図書館に設置し、関連する講座を実施しました。

**【課題】**

コーナーの充実を図るため、利用状況を把握し、関連する講座や講演会を継続して実施することと、英語多読サービスの方針を整理していくことが課題です。

児童サービス

**【現状】**

西東京市子ども読書活動推進計画は第3期に入り、地域や関係機関と連携・協力し、多くの取組みを進めてきました。計画策定記念事業として実施した市民や関係団体との共催事業「子どもの本まつり」では、小・中学生を対象とした読書会を開催し、一冊の本を丁寧に読み解き、読書の楽しさを伝える機会となりました。

※3 墨字資料…点字に対する語。通常の活字資料のこと。

※4 デイジー (DAISY) 図書…DAISY: Digital Accessible Information Systemの頭文字をとったもの。世界標準のデジタル録音方式による誰もが使えるアクセシブルなデジタル録音図書のこと。

※5 青年期支援…20代から30代前半の世代を対象とした就職・資格・生活などの資料を集め提供するサービス。

3～4か月児健康診査時に実施している絵本と子育て事業(ブックスタート※6)は、子どもの成長過程に応じた絵本の楽しみ方を保護者に伝えています。読書を通じて楽しみながら創造力や思考力を伸ばし、言語力を身につける環境づくりを進め、平成29年度からは3歳児健康診査時にも事業を拡大しました。

**【課題】**

施策をさらに進めていくためには、市民・関係団体、市の関係部署との連携、協力を強化して取組みを進めていく必要があります。3歳児健診時のフォロー事業は読み聞かせを行う会場と健診場所が離れていることから参加率が低いなどの解決すべき課題があり、参加しやすい仕組み作りが必要です。

YA (ヤングアダルト) サービス

**【現状】**

中高生向けの情報誌を、対象となる世代の子どもたちと職員が共同で編集し、同世代へのおすすめ本の紹介を定期的に行いました。また、POP展示や書評講座を開催し、その内容を展示やホームページに掲載するなど、公開に努めました。

**【課題】**

実施した講座等の内容は参加者からは好評でしたが、中高生の参加人数が少なく、今後は利用しやすい日程や講座内容の周知の仕方を改善し、学校図書館との連携も含め、この世代に向けての広報を充実していく必要があります。

レファレンスサービス※7

**【現状】**

収集資料の整備を行うと共に、国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に参加し、レファレンス事例の公開を行いました。利用者向けサービスとしては、Webでのレファレンスの受付と回答や、利用者向けのデータベース活用講座や子ども向け調べ学習講座等を実施しました。また、市民の調査・研究支援をするために職員の資質向上を図るレファレンス研修を定期的に行いました。

**【課題】**

新聞データベースをはじめ、図書館で閲覧できるデータベースの活用と周知が十分でないことから、広報と使い方の講習会は必須であり、継続的な実施が必要です。

地域・行政資料サービス

**【現状】**

古文書などの歴史的資料の修復、市史編纂資料や写真資料の電子化を進め、図書館ホームページの「デジタル西東京」での公開を進めてきました。また、西東京市縁(ゆかり)の人をまとめた冊子を発行、地域の人材を活かした講演会等の実施、関連する書籍を集めた書架やホームページを充実させました。

**【課題】**

子ども向けの郷土史講座や講演会は、小中学生への周知を工夫して参加を増やし、継続して実施する方向で検討する必要があります。

※6 ブックスタート…絵本を通じて親子の触れ合いの大切さを知ってもらうために実施する事業。西東京市では、平成15年(2003年)6月から3～4か月児健康診査時に実施され、事業の説明や図書館案内、読み聞かせ講師による絵本の読み聞かせの実演等がある。

※7 レファレンスサービス…利用者の調査・研究のために必要な資料(情報・文献等)を提供するサービス。



## ハンディキャップサービス

### 【現状】

視覚に障害のある利用者へのサービスとして、デジ資料の作製、点訳や音訳サービスなど、生活に必要な資料を利用者に適した方法で提供してきました。

平成 28 年度からは、国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスへデータをアップし、全国の公共図書館や点字図書館から年間延 13,000 件利用がありました。

### 【課題】

利用が増えることに伴い、デジ資料を作製する音訳者の確保や育成が今後の課題です。

## 3 職員組織計画の現状と課題

### 【現状】

職員組織計画については、サービスの継続と質の維持のために長期的人事計画の策定、職員の資質向上のための研修計画の整備、司書の専門性と経営感覚を併せ持った職員の意識改革の推進を図りました。

貸出しや予約の利用実績の増加に伴い作業量が増えた業務については、ICタグを活用した自動貸出機などのシステムを導入し、作業の効率化と人件費の抑制を図り、業務のあり方を大きく変更しました。

長期的な人事計画については、各館の施設規模や立地条件、利用状況を考慮し、図書館ネットワークを維持するために必要な職員配置と市民嘱託員の雇用促進を進め、職員定数の削減や司書の新規採用を行うなど見直しに努めてきました。

研修については、庁内研修や外部研修への積極的な参加、受講した専門研修を館内の全体研修において還元する、災害対応、個人情報セキュリティ管理等の危機管理研修を実施するなど、情報や知識の共有化を図ると共に人材の育成を進めました。

運営体制については、平成 30 年 3 月に図書館協議会から「西東京市図書館の運営体制のあり方について」出された提言の中で、「西東京市図書館のこれからの運営体制のあり方として、現行の司書を中核とする市職員と専門の嘱託員による運営体制の維持発展が適切である」と述べられています。

### 【課題】

定期的実施する研修や情報の共有化により、様々な課題に対応してきました。今後も図書館機能の充実を図るために、効率的・効果的な運営体制について見直すとともに、市民のためにどのような資料を収集・保存していくのか、新しい時代に必要なサービスは何か、など将来を見据えた長期的な展望を持つ組織づくりをどのような形で進めていくのが課題です。

## 4 施設計画の現状と課題

### 【現状】

公共施設の老朽化対策の課題に対し、厳しい財政状況の下で、長期的視点に立って更新・統廃合・長寿命化等を計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設の適正配置を実現するために、本市では「西東京市公共施設等総合管理計画」を作成し、今後の公共施設の総量を抑制するとしています。

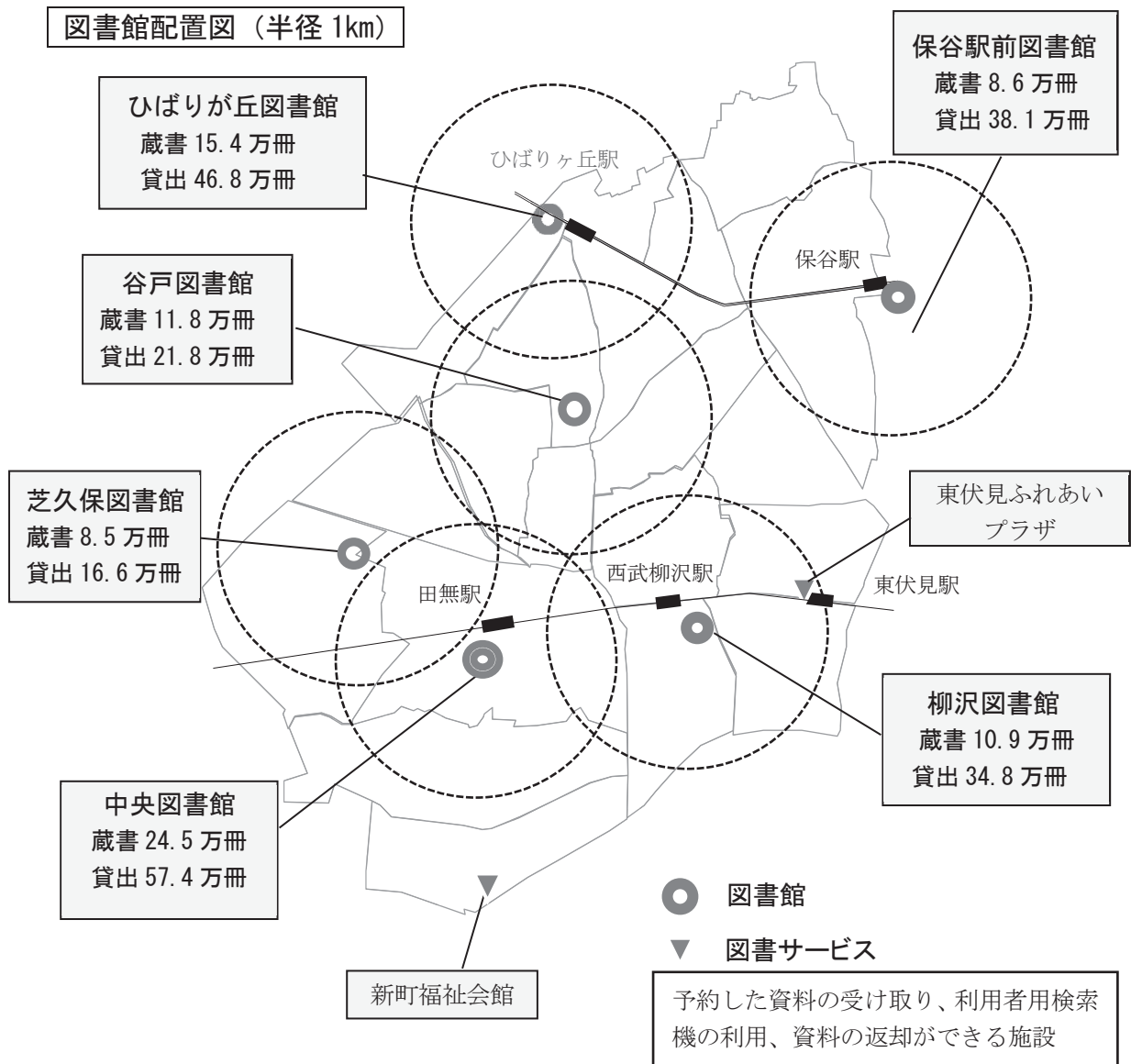
西東京市の図書館は、市内 6 館の図書館に加え、東伏見ふれあいプラザや新町福祉

会館の図書サービスを窓口にして、情報（資料）・物流・職員でネットワークを結び、利用環境の整備を進めてきました。

学習支援機能を持つ機関として、所蔵する資料や情報を提供するだけでなく最大限に活用して市民の学びの活動へと繋げていくため、中央図書館では、図書館ネットワークの中核を担い、対外的な対応や様々なサービスの企画・運営のほか、地域・行政資料やレファレンスサービスの統括を行っています。現状は、中央図書館の施設規模が小さいことから、中核的な機能が十分果たせず、地域館と資料の分担保存や機能を分散して対応しています。

地域館は、現在駅前3館と芝久保、谷戸の小規模館とを合わせ5館あります。地域館の特徴は、図書館近在の市民の利用に支えられ、中央図書館機能を有する施設まで足を運ばなくても図書館サービスを受けることができることです。

保谷駅前図書館ではビジネス支援、柳沢図書館ではシニア支援、ひばりが丘図書館では原爆小文庫、芝久保・谷戸の2館は併設書庫の資料を活かした利用に支えられています。中央図書館に所蔵がなくとも、地域館が中央図書館を補完する資料サービスが実現できているメリットは大きいものがあります。



芝久保図書館書庫の一般資料、特に全集や文学関係の研究資料と、谷戸図書館の児童書研究資料は、一定規模のまとまりを持った内容のものであることから、本来は中央図書館に所蔵されるべきです。

**【課題】**

西東京市図書館は、全国的にも貸出しや予約件数の多い図書館ですが、多様なニーズに応える資料を保存し提供するには施設規模が小さく、蔵書を保存するスペースが不足していることが大きな課題です。

中央図書館は、昭和50年に開館した施設で、サービス対象人口が現在より少規模でした。そのため、現在のように年間200万冊を超える貸出しを支える中核施設として、市民の旺盛な学習意欲に応える蔵書を維持することは厳しい状況となっています。

多摩地区においても貸出しの指標では高い数値を示していますが、中央図書館の床面積は26市中最下位であり、読書や調査・研究のために必要な閲覧スペースを十分に用意することが困難となっています。

多摩地区における中央図書館施設の規模・機能についての比較一覧

	西東京市	多摩26市平均	同等規模の類似団体平均*1	2000年以降の新施設の平均*2
床面積	1,571 m <sup>2</sup>	3,188 m <sup>2</sup> (203%)	4,544 m <sup>2</sup> (289%)	4,277 m <sup>2</sup> (272%)
蔵書数	25.3万冊	40.4万冊 (160%)	52.5万冊 (208%)	43.0万冊 (170%)
貸出数	61.5万点	54.1万点 (86%)	66.3万点 (108%)	59.6万点 (97%)
座席数	53席	115席 (217%)	159席 (309%)	216席 (408%)

『平成29年度東京都公立図書館調査』東京都立中央図書館より作成（29年度実績）

\*1 「同規模」：人口14～26万人までの9市（西東京市含まず）

\*2 青梅市、府中市、多摩市、稲城市、羽村市、あきる野市の6市

\*カッコ内は西東京市を100%とした場合の各項目の比率

## 5 その他の取組みについて

### 利用者登録

**【現状】**

合併以後、市民の登録率※8は20%以上でしたが、25年度に19.8%になり、以降、減少傾向にあります。

**【課題】**

潜在的な利用者への働きかけが必要です。登録率の低い中高生世代や青年層の掘り起し、高齢社会への対応、日本語を母語としない市民へのサービスのあり方など、課題への柔軟な対応と、それらの活動を広く周知する広報活動の創意工夫や体制づくりが必要です。



※8 登録率…1年間に利用した人の数（有効登録者数）の人口比。

## 広域連携

### 【現状】

図書館では、近隣自治体の図書館との協定を結び相互利用を実施しています。

多摩北部都市広域行政圏（多摩六都）を構成する小平市、東久留米市、清瀬市、東村山市、西東京市、また、四市行政連絡協議会を構成する武蔵野市、三鷹市、小金井市、西東京市において、図書館の相互利用を実施してきました。

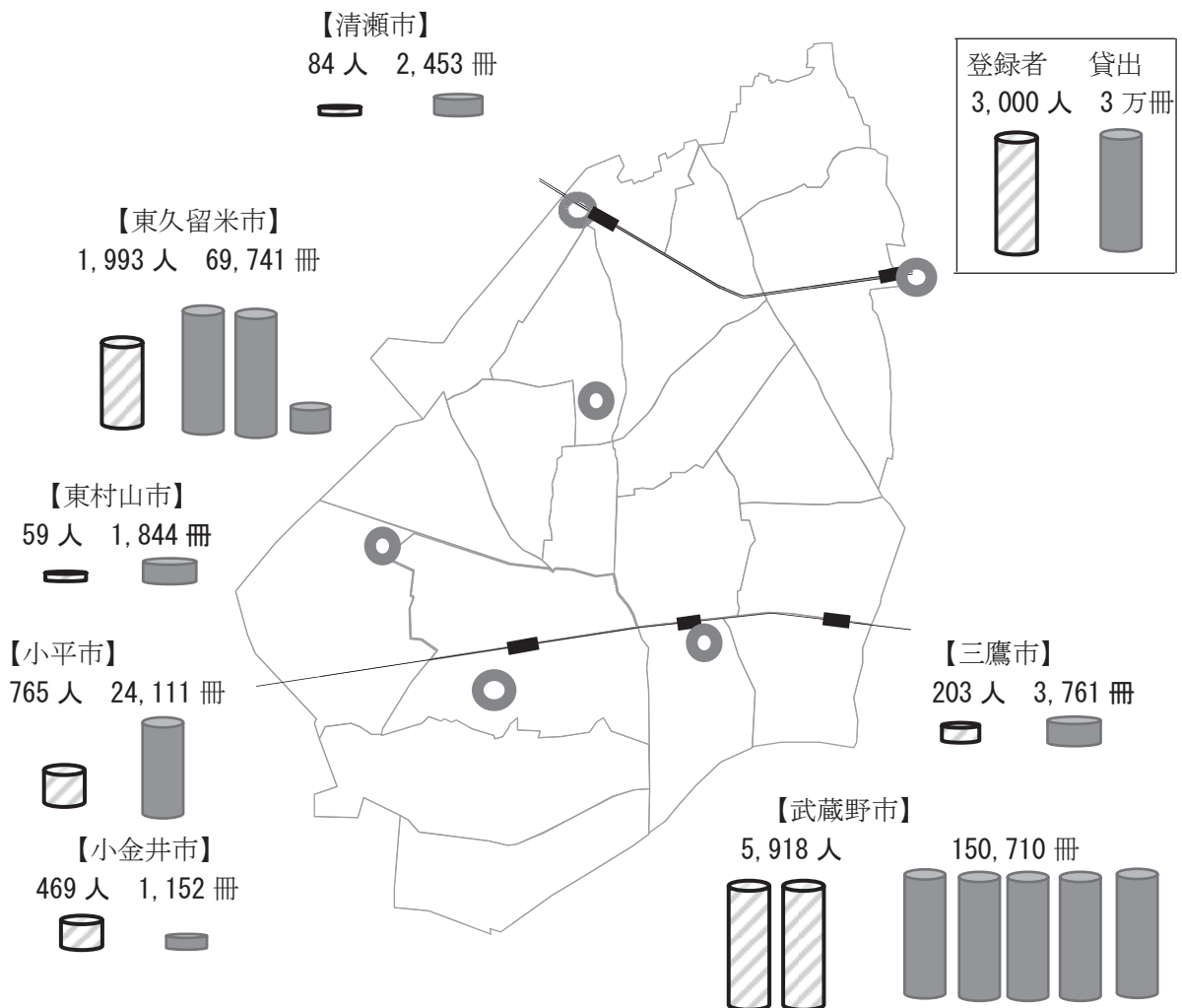
多摩六都では各自治体図書館で発行している図書館の利用カードを共通化するサービスをはじめ、共同編集した利用案内の発行、各図書館の催し物を多摩六都ホームページやポスター掲示し利用者への情報提供を行い、職員間では各自治体図書館で開催する研修会に参加するなどの取組みを進めてきました。

四市行政連絡協議会では、4市公共施設利用ガイドマップの発行や講演会などを実施しました。

### 【課題】

相互利用を実施していることを知らない市民がまだいることから周知が必要です。また、広域連携事業の提携・拡大について検討します。

西東京市民の広域利用状況（各自治体図書館への登録者数、貸出冊数、平成 29 年度）



## 6 アンケート等に見る図書館への評価

図書館は、公共施設の中でも、市民利用が多い施設です。

平成 29 年に実施した市民意識調査によれば、「図書館」を年 1 回以上利用したことがある市民の割合は 65.3%で最も多く、芸術文化分野の満足度・重要度でも「図書館サービスの充実」が最も高いポイントになっています。利用時頻度の高い年代は 40 歳代で月数回以上が 26%となっています。

平成 30 年 2 月に実施した図書館利用者アンケートの結果は以下のとおりです。

### 調査の概要

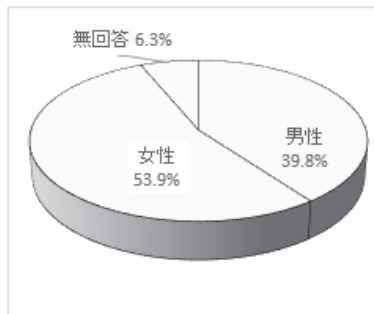
期間 平成30年2月6日(火)から2月18日(日)  
 対象 中学生以上の図書館利用者(来館者)  
 場所 西東京市図書館(6館)  
 方法 選択式アンケート調査  
 回収 図書館内に設置した回収箱  
 回答者数 791人(配布数 936人:回収率 84.5%)

### 調査項目

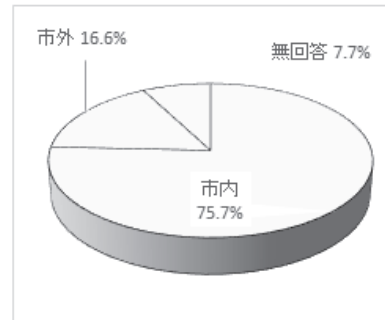
基本属性 性別、住まい、登録、年代  
 利用について  
 利用館、利用時間帯、サービス(認知度、期待値)  
 ※認知度など複数回答を求めた設問については回答者数791人に対する割合を数値化してあります。

### 回答者属性

性別	
男性	315
女性	426
無回答	50

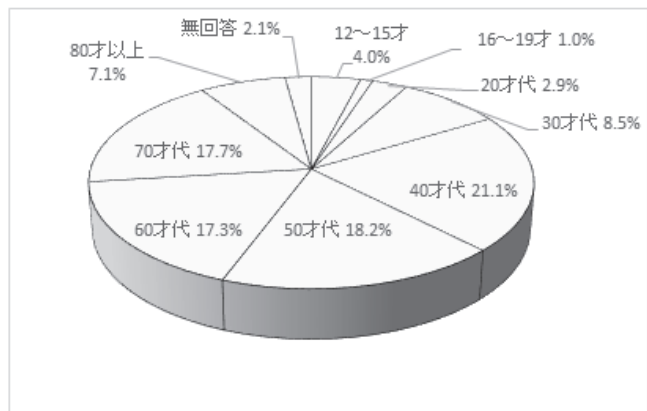


住まい	
市内	599
市外	131
無回答	61



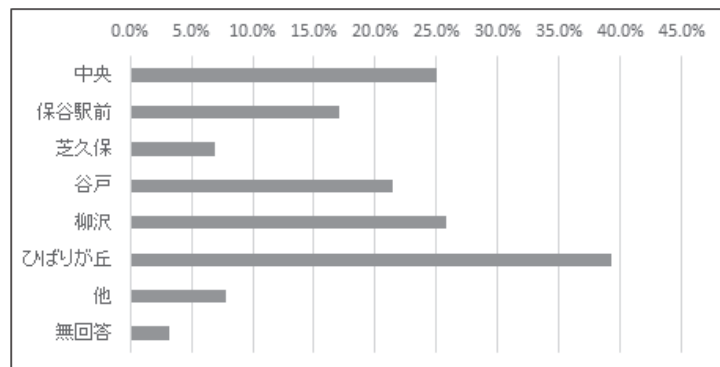
### 年齢

12~15才	32
16~19才	8
20才代	23
30才代	67
40才代	167
50才代	144
60才代	137
70才代	140
80才以上	56
無回答	17

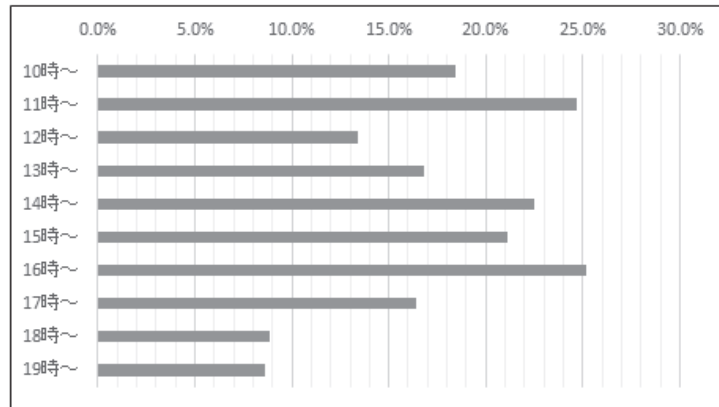


### 利用館 (複数回答:1,159)

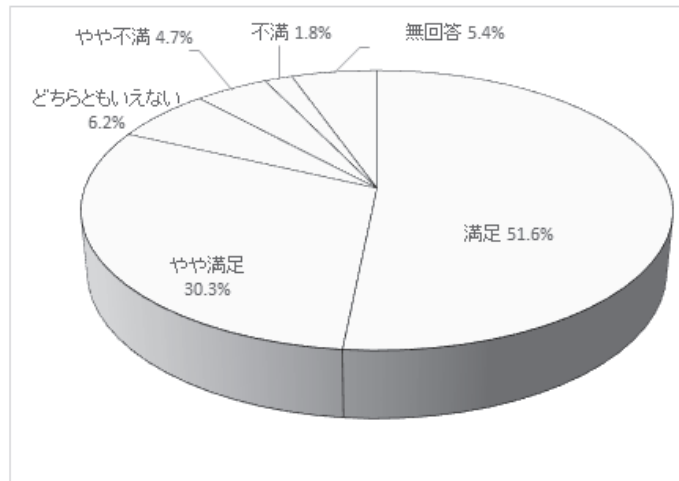
中央	198	25.0%
保谷駅前	135	17.1%
芝久保	55	7.0%
谷戸	169	21.4%
柳沢	204	25.8%
ひばりが丘	311	39.3%
他	62	7.8%
無回答	25	3.2%



時間帯	件数	割合
10時～	146	18.5%
11時～	195	24.7%
12時～	106	13.4%
13時～	133	16.8%
14時～	178	22.5%
15時～	167	21.1%
16時～	199	25.2%
17時～	130	16.4%
18時～	70	8.8%
19時～	68	8.6%
無回答	52	6.6%



満足度	件数
満足	408
やや満足	240
どちらともいえない	49
やや不満	37
不満	14
無回答	43

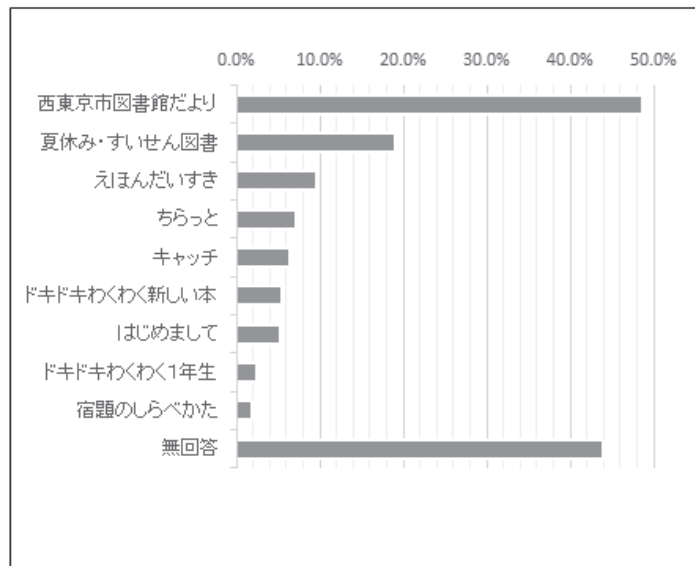


満足度については、「満足」、「やや満足」をあわせると81.9%が評価しています。

理由としては「応対が親切」、「蔵書、特に新刊が豊富である」、「予約したい本が予約しやすい」とされました。

「不満」、「やや不満」の理由として、「閲覧し、ゆっくり本を読むスペースが不足」「本の予約サービスはあるが、人気の新刊書など順番待ちで時間がかりなかなか読めない」「一部のスタッフの対応が悪い」といった意見や要望が寄せられました。

発行物	件数	割合
西東京市図書館だより	385	48.7%
夏休み・すいせん図書	151	19.1%
えほんだいすき	76	9.6%
ちらっと	56	7.1%
キャッチ	50	6.3%
ドキドキわくわく新しい本	43	5.4%
はじめまして	41	5.2%
ドキドキわくわく1年生	19	2.4%
宿題のしらべかた	15	1.9%
無回答	348	44.0%



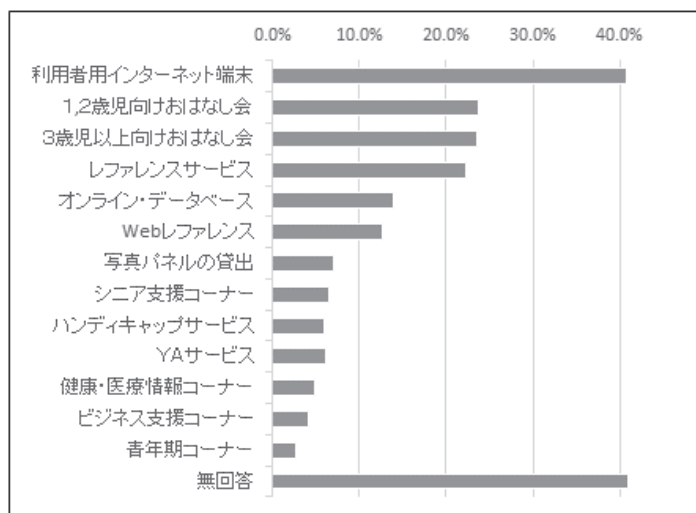
図書館の発行物については、図書館だよりが回答者の48.7%に認知されています。世代別、サービス別の発行物の認知度が低く、改善する必要があります。

(複数回答:1,706)

各種サービスの認知度

利用者用インターネット端末	322	40.7%
1,2歳児向けおはなし会	188	23.8%
3歳児以上向けおはなし会	187	23.6%
レファレンスサービス	177	22.4%
オンライン・データベース	110	13.9%
Webレファレンス	101	12.8%
写真パネルの貸出	56	7.1%
シニア支援コーナー	51	6.4%
ハンディキャップサービス	48	6.1%
YAサービス	49	6.2%
健康・医療情報コーナー	39	4.9%
ビジネス支援コーナー	33	4.2%
青年期コーナー	21	2.7%
無回答	324	41.0%

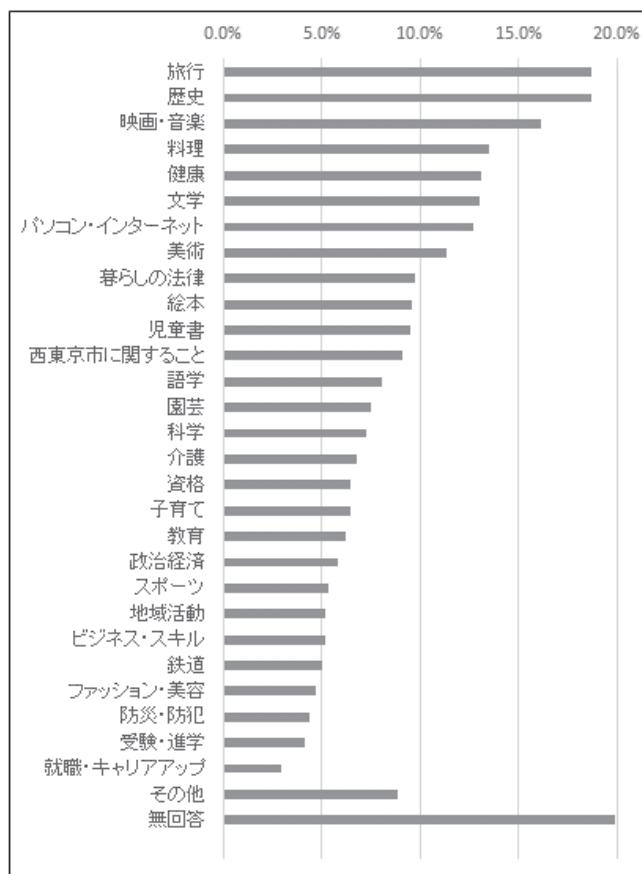
各種サービスについて、利用者用インターネット、おはなし会やレファレンスサービスの認知度は高く、利用が定着しています。シニア支援など、一館でコーナー設置をしているサービスや利用対象が特定されるサービスについては認知度が低い状況で、周知の方法など、改善が必要です。



(複数回答:2,201)

企画で取り上げてほしいジャンル

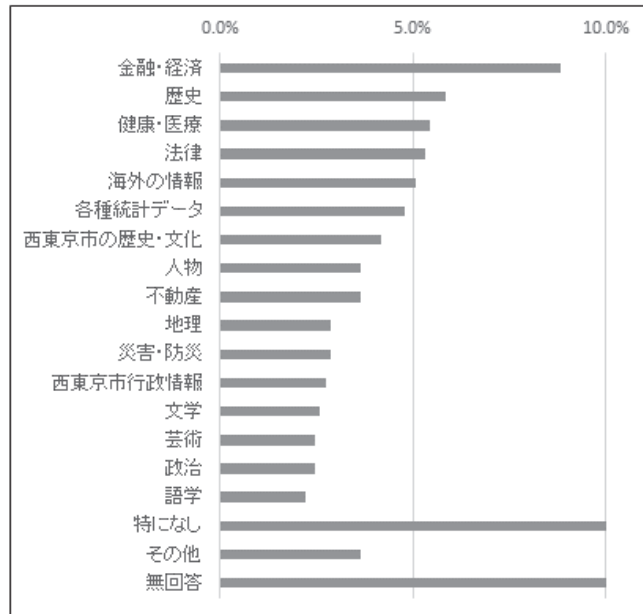
旅行	144	18.7%
歴史	144	18.7%
映画・音楽	124	16.1%
料理	104	13.5%
健康	101	13.1%
文学	100	13.0%
パソコン・インターネット	98	12.7%
美術	87	11.3%
暮らしの法律	75	9.8%
絵本	74	9.6%
児童書	73	9.5%
西東京市に関すること	70	9.1%
語学	62	8.1%
園芸	58	7.5%
科学	56	7.3%
介護	52	6.8%
資格	50	6.5%
子育て	50	6.5%
教育	48	6.2%
政治経済	45	5.9%
スポーツ	41	5.3%
地域活動	40	5.2%
ビジネス・スキル	40	5.2%
鉄道	39	5.1%
ファッション・スポーツ	36	4.7%
防災・防犯	34	4.4%
受験・進学	32	4.2%
就職・キャリアアップ	23	3.0%
その他	68	8.8%
無回答	233	19.9%



取り上げてほしいジャンルについては元々予約や利用の多い、「旅行」「歴史」「映画・音楽」などに関する回答が多い反面、近年注目されており、コーナー作りなどの取組みを行っている、「ビジネス・スキル」、「介護」、「語学」などのジャンルの回答は少なめでした。

調べ方が難しい分野(複数回答:1,049)

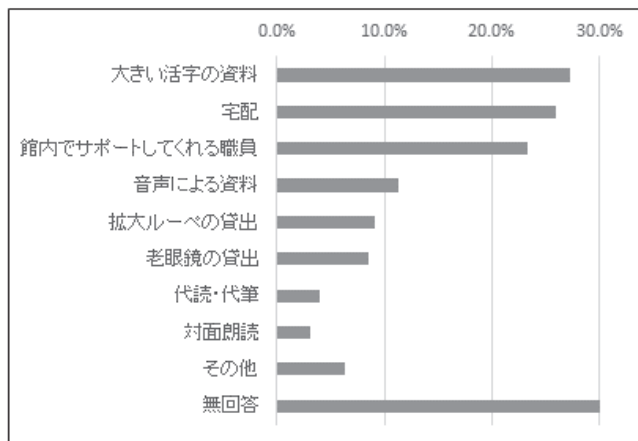
金融・経済	68	8.8%
歴史	45	5.9%
健康・医療	42	5.5%
法律	41	5.3%
海外の情報	39	5.1%
各種統計データ	37	4.8%
西東京市の歴史・文化	32	4.2%
人物	28	3.6%
不動産	28	3.6%
地理	22	2.9%
災害・防災	22	2.9%
西東京市行政情報	21	2.7%
文学	20	2.6%
芸術	19	2.5%
政治	19	2.5%
語学	17	2.2%
特になし	166	21.6%
その他	28	3.6%
無回答	355	46.2%



調べ方が難しい分野では、インターネット上のデータをはじめ、情報の鮮度が特に問われる「金融・経済」、「健康・医療」、「法律」という回答が多く、関心の高さと最新情報を提供することの難しさが表れています。取り上げてほしいジャンルでも上位にあった、「歴史」という回答も多く、関心の高さが伺えます。

超高齢化社会に向けて(複数回答:1,251)

大きい活字の資料	216	27.3%
宅配	206	26.0%
館内でサポートしてくれる職員	185	23.4%
音声による資料	90	11.4%
拡大ルーペの貸出	72	9.1%
老眼鏡の貸出	67	8.5%
代読・代筆	31	3.9%
対面朗読	25	3.2%
その他	50	6.3%
無回答	309	39.1%



超高齢化社会に向けてご意見をいただきましたが、「大活字資料」、「宅配サービス」、「サポート職員」、「音声による資料」の順に回答がありました。資料として蔵書に取り入れている大活字資料と音声資料への期待が大きいこと、今後の取組みとして力を入れている宅配サービスへの期待が大きいことが伺えます。利用者に対する職員の対応にも期待が大きく、課題といます。



## 西東京市図書館利用者アンケート自由意見について

アンケート回答者のうち、156人から合計195件の意見がありました。年齢別にみると50歳代の方が23.6%、40歳代が22.9%、70歳代が19.4%で60歳代が16.7%でした。意見は概ね5つに分けられました。

- (1) 図書館の運営や職員の対応などについて49件(25.1%)
- (2) 資料について44件(22.6%)
- (3) 個別のサービス、検索機などのシステムについて42件(21.5%)
- (4) 施設、設備について29件(14.9%)
- (5) 開館時間、休館日について10件(5.1%)

- (1) 図書館の運営や職員の対応などについては、運営に対する評価をいただく意見が多くありました。また、武蔵野プレイスのような施設を望む意見が多くありました。

運営形態として、現在の形での運営と指定管理者、委託を望む意見がそれぞれ複数ありました。

また、「図書館を利用する年齢又利用項目が年々変化していると想定されるのでいろいろな人の意見を聴取して参考にさせていただきたい」という意見もありました。

他にも、職員対応について、感謝の言葉をいただいた反面、対応の行き届かない点について具体的な指摘をする意見も複数ありました。

- (2) 資料については、「文庫本の充実」「いろいろなジャンルのCDをそろえてほしい」「CDの貸出点数を増やしてほしい」「図書が汚れている、書架が乱れている」といった意見が多く、コンピュータ関係のように最新情報が必要なものや歴史マンガのように物事を読みやすく表現しているものの充実や、利用の多い図書の複本を望む意見が複数ありました。

- (3) 個別のサービス、検索機などのシステムについては、貸出機など自動化を進めていることや予約システムを改善したことについて評価する意見が多くありました。反面、「インターネット端末を増やしてほしい」「人気図書の予約待ちが長いため、何らかの対応策を求める」といった意見もありました。

検索システムについては評価する意見が多い反面、あいまい検索の強化など図書館システム以外の場面で普及している新しい機能の導入を求める意見もありました。

- (4) 施設、設備については、「テーブルが少ない」「椅子を増やしてほしい」「学習できるスペースを増やしてほしい」といった意見のほかに、駐輪場の改善やトイレの洋式化の要望、図書館の老朽化についての意見がありました。

- (5) 開館時間、休館日については、週末の閉館が6時では早い、開館は9時か9時30分からといった意見が複数ありました。休館日を、減らしてほしいという意見が複数ありました。

その他の意見としては「図書館を中心とした行政サービスや文化事業の促進をしたらよい」といった意見などがありました。

### Ⅲ 基本的な考え方

#### 1 基本理念

基本理念については、「基本計画・展望計画」の基本理念を継承します。

《市民とともに学び、考え、成長する図書館をめざします》

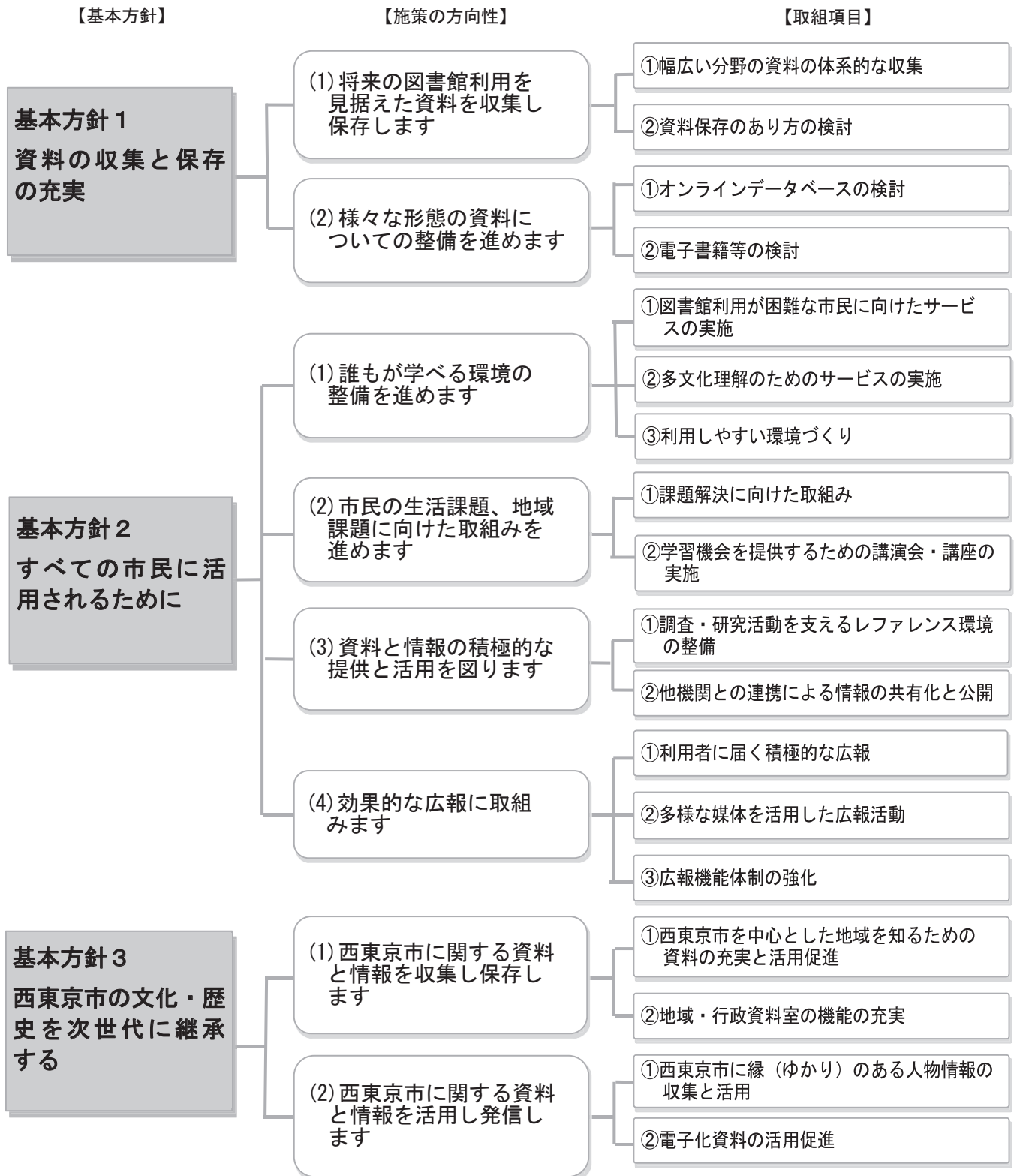
西東京市図書館は、市民のひとりひとりが自ら学び、考え、成長し、決定し、自らの責任で行動するために必要とされる知識や情報を分け隔てなく市民すべてに提供する公共サービス機関として、時代に適合した品質の高いサービス提供に積極的に取り組み、成長する図書館であり続けます。

#### 2 基本方針

時代に適合した品質の高いサービス提供に積極的に取り組み、《市民とともに学び、考え、成長する図書館》をつくるために、これまでの現状と課題を踏まえ、本計画では6つの基本方針をたて、それに沿った施策の方向性と具体的な取り組み事業を示し推進します。

- 【基本方針1】 資料の収集と保存の充実
- 【基本方針2】 すべての市民に活用されるために
- 【基本方針3】 西東京市の文化・歴史を次世代に継承する
- 【基本方針4】 未来を担う子どもの読書活動の支援
- 【基本方針5】 地域、行政と連携した図書館サービスの向上
- 【基本方針6】 効率的・効果的な運営体制の構築

### 3 計画の体系



【基本方針】

【施策の方向性】

【取組項目】

**基本方針4  
未来を担う子どもの  
読書活動の支援**

(1) いつでもどこでも子ども  
が本に出会える場づくり  
を進めます。

- ①魅力ある書架づくりと提供方法の工夫
- ②市民、関係団体、関係機関との連携・支援

(2) 子どもの成長に沿った  
取組みを進めます

- ①乳幼児と保護者の読書活動の推進
- ②小学生の読書活動の推進
- ③Y A（ヤングアダルト）世代の読書活動の推進

(3) 学校との連携・協力・  
支援を進めます

- ①学校・学校図書館への支援
- ②保護者、PTAとの連携と支援

**基本方針5  
地域、行政と連携し  
たサービスの向上**

(1) 市民、関係団体との  
ネットワークづくりを  
進めます

- ①市民、団体とのネットワークづくり
- ②市民からの発信の場づくり

(2) 他自治体の図書館や  
市の他部局との連携を  
図ります

- ①近隣自治体とのネットワーク
- ②地域や行政との連携

(3) ボランティアの拡大を  
推進します

- ①協力員の活動の推進
- ②ボランティアの育成に関する取組み

**基本方針6  
効率的・効果的な運  
営体制の構築**

(1) 職員の専門性の向上を  
目指します

- ①職員のスキルアップに向けた取組み
- ②専門性の高い職員集団の育成

(2) 図書館ネットワークの  
強化を図ります

- ①中央図書館と地域館とのネットワークの強化
- ②中央図書館の機能拡充
- ③図書館システムの向上

(3) 利便性と効率性の向上に  
向け取組みます

- ①年度ごとの事業計画の作成と実施
- ②事業の進捗管理と評価
- ③危機管理